

「保坂猛 西田司 2人展—スピードスタジオ以降の展覧会—」開催

会期 7月11日~7月19日
会場 INAX:GINZA 7F (東京都中央区)

1999年に大学院を卒業後、組織に所属することなく設計事務所「スピードスタジオ」を立ち上げ、ユニットで設計活動を始めた保坂猛さんと西田司さん。20代の頃発表した作品で注目を浴び

るようになるが、5年後に解散。その後お互いにアトリエ事務所を開設し、それぞれ独自の道を歩み出しているが、現在、どのような作品をつくり、活動をしているのだろうか。

本展ではふたりの建築家がそれぞれに割り当てられた個室を目一杯使って、プロジェクトそのもののほか、設計に対するスタンス等、個性際立つ展示が展開された。

保坂さんの展示室に近付くと、何やら風船がフワフワと飛び出してきた。風船に結びつけられた紐の先にはスケッチブックの切れ端が縛り付けられてお

本頁はオンデザインによる模型。左・中左：生活の背景となるさまざまな壁をもつ「garden complex」。/中右：食器や雑貨を見せる収納棚が大開口いっばいに広がる「FIKA」。/右：夫婦+子供7人のための「new window/あかるい壁」。

り、どうやらこれが展示物であることが分かる。さらに室内へと歩みを進めると、天井を埋め尽くす風船とそこからぶら下がる無数のスケッチが浮かんでいた。窓を開けるとゆらゆらと揺れ、西日を受けてきらきらと光る。顔の近くにあるスケッチを手にとると、鉛筆やペンのタッチ、手がかりとなつたらしい単語の走り書きなどから、保坂さんのスタディの過程が感じられ、とても興味深い。一方、西田さんの展示は、現在進行する9つの住宅プロジェクトが模型で紹介されていた。スケールは1/20~1/50と大きく、食器や照明、植栽ま

でつくり込まれた本物さながらの模型は圧巻である。また模型の横にはそのプロジェクトのキーワードが綴られており、コンセプトとかたちとなった表現のつながりが一層明快になる。またオンデザインは、それぞれの作品の担当スタッフをパートナーとし、西田さんと共同で設計活動を行うパートナー制を採用している。施工者から建主までフラットな関係を築くことで、核となるアイデアがさまざまな人の思考を経て、より客体化された建築へつながることが意図されている。そうした思考の過程をどこに感じることができるのか。さまざまな視点から楽しめる展示であった。

本頁は保坂さんの展示。風船はアルコール系の成分からなり、水に溶ける。/左：風船の口の部分には植物の種が仕込まれている。万が一、外に飛んでいったらどこかで芽吹くことが意図される。/左下・右：揺れるスケッチと風船。自然光での展示。

